

2013年2月ドミニカ（共）内政、外交、経済定期報告

2013年3月25日
在ドミニカ共和国日本国大使館

1. 内政

(1) 独立記念日のメディーナ大統領による演説

27日、メディーナ大統領は独立記念日の演説を行った。同演説は、教育、厚生・医療、市民の安全、公共工事、中小企業対策、電力部門、農業、環境、観光と幅広い分野に及んだ。中でも最も反響が大きかったのは、バリック・ゴールド社による投資案件に関する言及で、メディーナ大統領は現行契約は国にとって不利であるため、契約見直しの合意が成立しなければ、新税の導入を行う旨述べ、国民から高い評価を得た。

(2) エネルギー・鉱山省の新設

15日、メディーナ大統領は、エネルギー・鉱山省を新設するための法案を上院に提出した。同省は、現在商工省が担っているエネルギー政策及び鉱山政策を担当することとなり、ドミニカ電力公社を始め、国家エネルギー委員会、電力監督庁等の所轄省庁となることが予定されている。

(3) ドミニカ革命党（PRD）の動き

ア. 1日、高等選挙裁判所は、国家警察と内務省に対し、PRD党本部の建物をヴァルガスPRD党首に引き渡すよう命じた。同本部は、1月27日にPRD全国執行委員会が行われた際に暴動が発生したことから警察が仲介に入り管理下に置いていたが、同命令を受けて15日、ヴァルガス党首に引き渡された。

イ. ヴァルガス党首とメヒア元大統領の内部紛争は続いており、ヴァルガス党首が次期党首を決めるための党大会の開催は2014年に行われると主張しているのに対し、メヒア派は党大会の開催は2013年7月に行うべきだと主張している。

ウ. 28日、メヒア元大統領は、憲法裁判所に対し、高等選挙裁判所が出した判決（メヒア元大統領を含む3名をPRDから除名することを命じた）を無効とするよう訴えた。

(3) キリスト教社会改革党（PRSC）の動き

1日、高等選挙裁判所は、261人の元PRSC党幹部・党員をPRSCに復帰させるよう命じた。これらのメンバーは、アリスティ上院議員の派閥に属する党幹部・党員で、昨年10月以来、党への復帰を要求していた。

(4) 教師連盟による抗議行動

ドミニカ教師連盟は教育省に対する給料アップを要求してきており、2月に入り教育省側は20%の給料アップの提案を行ったが、連盟側は100%の給料アップではないことから、この提案を受け入れなかった。

(5) 麻薬・汚職関連

ア. 12日、2011年10月より警察が捜索していたジェレミ・ガルシアがモカ市で逮捕された。ガルシアは、シバオ・カルテルとの関係が疑われており、米国政府から10の罪に問われ、犯罪人引き渡し請求が行われていた。

イ. 14日、最高裁判所は、アリスティ上院議員に対し行われた刑事訴訟について、無効とする旨発表した。同訴訟は、2006～2009年にアリスティ議員がドミニカ県連合の会長を務めていた期間に汚職を行っていたとする内容であった。

ウ. 14日、最高裁判所は、パウティスタ下院議員に対する訴訟について、無罪との決定を下した。同訴訟は、パウティスタ議員がマルテリー・ハイチ大統領に対する収賄を行っていたとする内容であった。

2. 外交

(1) セデーニョ副大統領のコスタリカ問

19～22日、セデーニョ副大統領は、コスタリカを訪問し、SICA首脳会合に出席した。セデーニョ副大統領は、地域統合プロセスが治安・麻薬、移民問題、気候変動等、幅広い分野における重要な鍵を握る旨述べた。同会合には副大統領の他、セロン駐コスタリカ大使、ダルガム外務省経済担当次官が出席した。

(2) ベアード加外相の当国訪問

ジョン・ベアード加外相は、中南米外遊の一環として当国を訪問し、21日、メディーナ大統領との30分に亘る会談を行った他、カスティージョ商工大臣との会談、入国管理局との会合等を行った。ベガード加外相の訪問は、当国政府と加企業のバリック・ゴールド社との契約見直しが官民から要求されている最中に行われたもので、メディーナ大統領との会談の取材は行われず、記事資料等の報道発表も一切行われなかった。

(3) 第9回欧州連合・アフリカ・カリブ・太平洋会議 (EU・ACP)

14～16日、第9回EU・ACP会合がサントドミンゴにおいて行われ、カリブの13カ国と30名の欧州議会議員が出席した。同会合において、EUが引き続きハイチの復興のフォローを行うこと、EUに対しODA予算をGDP比0.7%に維持し続けるよう懇請することが合意された。

14日には、ルイス・ミシェルEU・ACP副議長がメディーナ大統領と会談を行った。ミシェル副議長は、メディーナ大統領が行っている社会格差是正、青年育成等のために行っている施策を高く評価した。

(4) フェルナンデス前大統領の中米議会への加入

14日、中米議会 (Parlacen) の前議長マノロ・ピチャルド氏は、フェルナンデス前大統領が近日中に中米議会の議員として宣誓を行う予定である旨発表した。

(5) ハイチ関連

ア. 5日、エクアドルとニカラグアから当国に750名のハイチ人が強制送還された旨発表された。ハイチ人はエクアドルとニカラグアへの入国査証は不要であるため、当国を経由し不法入国していた。2012年には、総計で3000人以上のハイチ人がエクアドルとニカラグアから強制送還されている。

イ. 6日、シネアス駐ドミニカ (共) ハイチ大使は、699人のハイチ人に対する労働査証が無料で手交された旨発表した。本件査証発給は、昨年クリスマスシーズンにハイチで休暇を過ごしたハイチ人が当国に再入国出来なくなっていた問題に対し、両国政府が合意し取られた対策である。

(6) 野球関連

2013年の日本のプロ野球シーズンが開始し、合計9名のドミニカ人選手が日本のプロ野球チームでプレーすることが発表された。内訳は、中日のダニエル・カブレラ、エクトル・ルナ、ビクトル・ディアス、DeNaのソーサ・ブランコ、トニー・ブランコ、西武のホセ・オルティス、エステバン・ヘルマン、ロッテのカルロス・ロサ、ソフトバンクのウィリ・モ・ペニャとなっている。

3. 経済

(1) 対外債務の増加

26日、大蔵省は1月31日時点の債務が205.27億米ドル、GDP比35%に上っている旨発表した。対外債務は62.9%、対内債務は37.1%を占めている。

(2) バリック・ゴールドを巡る動き

昨年から、バリック・ゴールドとの契約が当国にとって不利であるとの訴えが複数の社会

団体から出ており、2月に入り、下院において本件契約に関する調査を行うことが決定された。また、27日の独立記念日に際し、メディーナ大統領は契約の見直しを訴え、仮に合意が成立しない場合には新税の導入を行う旨述べた。

(3) ロマ・ミランダ鉱山に関する環境調査

7日、UNDPは、エクストラタ・ニッケル社のロマ・ミランダ鉱山に関し、環境調査を行う旨発表した。同調査の結果は4月に提出される予定。これに対し、20日、複数の社会団体が本件調査を実施する技術者の人選が不相当であるとして抗議活動を行った。

(4) バイア・デ・ラス・アギラス土地問題

14日、ヒメネス前観光大臣、ガルシア観光大臣、ロハス環境大臣、ピナ大統領法律顧問がバイア・デ・ラス・アギラス土地問題に関する解決案として、土地を一度売却し、売却金のうち55%を国に、残りの45%を土地所有者に対し分配する案を出したが、21日、メディーナ大統領は同案を受け入れず、現在行われている裁判の結果を見た上で判断する旨発表した。

(5) 観光関連

ア. 5日、ガルシア観光大臣は、2012年にクルーズ船の観光客が45万3千人に上り、前年比で20%増加した旨発表した。また、カルニバル社がプエルトプラタに新たなターミナルを建設予定で、2014年には35万人の観光客を受け入れる見通しであると発表した。

イ. 12日、メディーナ大統領は、中国人企業家 Wang Yongcai 氏と懇談をした。また、ガルシア観光大臣は、Wang 氏が中国人観光客の誘致のために当国を訪問した旨、3月には中国のTV局が観光番組を撮影するために当国を訪問予定である旨述べた。

ウ. 15日、メディーナ大統領は、プンタカナ・ダウントウン計画の起工式に出席した。同計画では、1億米ドルの投資が行われ、15万平方kmに商業施設、娯楽施設、ホテル等が建設される予定。

エ. 16日、メディーナ大統領は、北部のプラジャ・グランデ地区の観光開発プロジェクトの起工式に出席した。同計画は、米国のノース・ショア・ランド・ホールディングス社が手がける総額4億米ドルの投資案件で、120万平方kmの敷地にブティックホテルや別荘を建設する予定。

(6) メトロ2号線

ア. 26日、ペニヤ輸送再編局長官は、地下鉄2号線の工事が完了し3月には運転を開始する予定である旨発表した。乗車料金は現行と同じ20ペソで、2号線を合わせて30駅が開通する。

イ. 26日、ペニヤ輸送再編局長官は、パナマの地下鉄長官との間で協力合意に署名し、パナマの技術者20名が当国の地下鉄において研修を受ける予定である旨発表した。

(7) 電力関係

ア. 12日、ドミニカ電力公社 (CDEE) の発電会社に対する負債が増え続けており、右に伴い、首都圏、サンクリストバル、アスア、サン・ファン・デ・ラ・マグアーナ、ラベガ等で16~18時間に及ぶ停電が頻発している旨発表された。ドミニカ電力業界協会の報告によれば、現時点での負債は6億米ドルに上っている。

イ. 18日、発電会社のエヘ・ハイナ社は、サントドミンゴ県ハイナにある発電所に火力発電基2基を新設する旨発表した。この2基は石炭による火力発電基であり、それぞれ120メガワットの発電量を持ち、2016~2017年に運転が開始される予定である。総投資額は6.24億米ドルに上る。

(8) コーヒーの疫病“ロヤ”の拡大

ア. 18日、ドミニカコーヒー審議会会長は、2012年末から対策を行っているものの、コーヒーの疫病“ロヤ”が全国に広がっており、5万のコーヒー農園の85%が被害を受けている旨発表した。今年のコーヒーの収穫量は25%減少する見通しである。

イ. 18、19日、当国と中米の農業大臣はコスタリカに参集し、各国で協力し“ロヤ”対策を行うことについて協議を行った。

(9) 2012年の輸出額

17日、ロドリゲスCEI-RD長官は、2012年の当国の輸出額が90億米ドルに上った旨、2013年の輸出額は更に20%増の107.8億米ドルを目指す旨発表した。

(別添1) 経済指標

(別添2) 疾病発生状況

(了)